

4 万人が受検、大学生が増加傾向 = 平成 28 年度第 1 回日本語検定 =



日本語の総合的な能力を測る「日本語検定」（略称・語検）の平成 28 年度第 1 回（通算第 19 回）検定が、6 月 17 日（金）と 18 日（土）に行われました。国内は 47 都道府県 91 カ所の一般会場と 715 カ所の準会場、海外はアメリカ（グアム、ニューヨークの 2 カ所）、イタリア（フィレンツェ）、フランス（ラ・マドレーヌ）、韓国（ソウル）の 4 カ国 5 カ所で実施され、九州での震災の影響もあって前回は 3・8%（1578 人）下回る 4 万 3 0 4 人が受検しました。

「語検」は、敬語や文法、語彙（ごい）、表記など 6 つの領域にわたり、日本語を正しく使うことができるか、一人ひとりの能力を測るものです。1 級から 7 級まで、小学生から社会人まで幅広い年齢層を対象としています。検定結果は、7 月上旬に語検ホームページで合否速報が発表され、同中旬には個人カルテと認定証が発送されます。

今回の受検者数は、1 級（社会人程度）7 8 4 人、2 級（大学卒業程度）6 3 6 4 人、3 級（高校卒業程度）1 万 5 6 0 7 人、4 級（中学校卒業程度）8 7 5 7 人、5 級（小学校卒業程度）4 4 8 0 人、6 級（小学校 4 年修了程度）3 4 4 2 人、7 級（小学校 2 年修了程度）8 7 0 人で、前回に比べて小学校低学年から卒業までを想定した 5 級から 7 級までの受検者が 3 0% 近く減った半面、高卒から大卒までの 3 級と 2 級が 1 5% 増えたのが特徴です。

語検事務局は、詳細な分析はこれからと前置きしたうえで、5 級から 7 級が減少したのは「九州で団体受験が減ったのが一つの要因」としており、熊本地震の影響があったとみられます。一方、2 級と 3 級は「大学の『入口』と『出口』での受検が増えている」としています。2 級は「就職活動を見据えてコミュニケーション能力を向上させる」ため、3 級は「大学生として（求められる）日本語力を確保する」ためとみており、厳しい就職戦線などが受検者増の背景にあるとみられます。最年長者は 2 級を受検した東京都の 93 歳の男性、最年少者は 7 級を受検した神奈川県幼稚園に通う 5 歳の男子でした。



◆ 9 6 1 人が受検 = 東京 2 3 区会場

東京 2 3 区の一般会場となった豊島区西巣鴨の大正大学では、9 6 1 人が 1 級から 7 級に挑戦しました。

気温が 30 度を超えて日差しもまぶしく、梅雨を忘れさせるような晴天の中、校門をくぐる受検者は半そで姿が目立ち、日傘を差す女性も散見されました。検定が始まる 1 時間前には廊下やロビーなどで待機する受検者も増え、会場となる教室の扉が開くと次々に入場。着席するとすぐに問題集を開いて目を通す光景も見られ、緊張感が漂っていました。教室の大きさに合わせて 30～90 人ずつ、級ごとに分けられた会場では、15 分前に監督者から注意事項の説明があり、受検者は耳を傾けていました。

次ページへ 

◆コミュニケーション能力を磨く

2級の会場となった教室で問題集に視線を落としていた小平市在住の女性(21)は音楽大学の4年生。アナウンサーで活躍している先輩が検定資格を持っていると知ってコミュニケーション能力を磨くために語検に初挑戦。「アナウンサーは難しそうだけれど、人と接するサービス関係の仕事に就きたい」と笑顔で話し、就職戦線を乗り越えた先にある社会人としての活躍に思いを馳せていました。



◆「メール」で意思を伝えるには

既に3級を取得済みで2級へのレベルアップを目指す中野区在住の会社員の男性(28)は、仕事でメールを使うのは当たり前となっている現在、文字だけで相手に意思を伝える難しさを感じることもあるとのこと。「メールでちゃんとした敬語を使いたい」と仕事をスムーズにこなすためにも誤解を招かない正しい日本語の習得に意欲を燃やしていました。

◆自分は大丈夫なのか？

4級の検定会場となった教室で、初めての検定にも緊張した様子を見せず、笑顔で取材に応じてくれたのは杉並区在住の男性(71)。アナウンサーなどプロの言葉遣いが乱れているのではと、最近感じるという。3世代同居でお孫さんの言葉遣いも気になるが、「果たして自分は大丈夫か、正しい(日本語の)使い方をしているのか」と自己点検での受検。「もちろん勉強はしていません」とぶっつけ本番の腕試し。

◆正しい日本語を使いたい

4級の会場には大人に混じって子どもの姿もありました。「(日本語検定委員会の)ホームページを見て面白そうだった」と受検の動機を教えてくれた世田谷区在住の小学4年の女の子(9)は、3年生のときに5級、準4級をいずれも取得済みで、今回が3回目。漢字検定や数学検定、ことわざ検定にも挑戦中で、「正しい日本語を使いたい」「(将来は)お医者さんになりたい」と目を輝かせ、はきはきとした口調で話してくれました。



(時事通信社編集委員 升谷 昇)



**次回
予定**

文部科学省後援事業 **日本語検定**

平成28年度 第2回 (通算第20回)

一般会場 **11/12(土)** 準会場 **11/11(金)・11/12(土)**

申込期間 **8/1(月)～10/14(金)**